

## 【令和元年度「土木技術者と学生の交流会」開催報告】

開催日：令和元年10月16日（水）13：00-15：00

行事名：令和元年度「土木技術者と学生の交流会」（「建設技術フェア2019in中部」の一コマにて実施）

場 所：吹上ホール2階第一ファッション展示場

目 的：土木を学ぶ学生に土木への理解を深めていただくと共に、社会で活躍する技術者や学生間で交流することで、土木の魅力を語り合い、将来のビジョンを具体化していただく。

テーマ：「土木魅力カルタ」で技術者と学生が交流。学生が中部の土木施設・遺産・プロジェクトに触れて発見した魅力満載の「土木魅力カルタ」を用いた「大」カルタ大会を通じて、学生と技術者が交流する。カルタの写真やオリジナリティ溢れる魅力的な読み札により、土木の魅力を共有する。

参加人数：160名（土木技術者名20名程度、学生140名程度）

応募方法：大学・高専への直接連絡と中部支部HPに掲載

参加費：無料

スケジュール：13：00-13：30 開会あいさつ・中部支部活動紹介

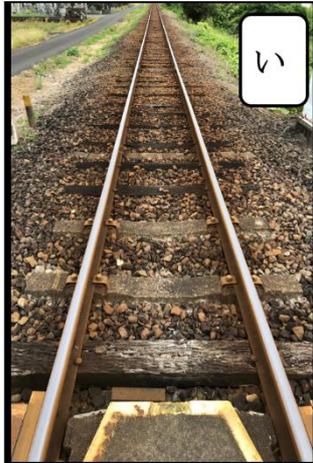
13：30-14：45 大カルタ大会

14：45-15：00 表彰および閉会、アンケート回答

概要：

2019年度の活動では「建設技術フェア2019in中部」の一コマで、カルタを通じて学生と土木技術者が交流する「土木魅力カルタ大会」を開催した。カルタのサイズは一般的なものより大きいはがきサイズとし、土木技術者20名程度、学生140名程度（名古屋工業大学、名城大学、大同大学、三重大学、名古屋大学、岐阜工業高等専門学校）の合計160名程度の大規模なカルタ大会になった。学生らは、事前に中部地域の土木施設・遺産・プロジェクトを調べ、現地で撮影した写真などを基に、その魅力を表現したカルタの読み札と取り札をセットで作成した。提出されたカルタには、「身近な生活の中に溶け込んでいくこと」、「施設建設により豊かになったこと/生活が変わること」、「象徴的な施設であること」などが「土木の魅力」として学生らの等身大の言葉で伝えられていた。次年度も「土木魅力カルタ大会」の継続を決定した。今回見えてきた課題の解決を目指しつつ、次回もカルタを通じて、中部圏から土木の魅力を発信したいと考えている。





- ・岐阜県本巣市上真桑
- ・樽見鉄道所有

1. 現在でもつかわれているコンクリート製ではないほんとに木のまくら木である
2. 景色に溶け込んでいる
3. 今では珍しいほんとに木のまくら木が使われている軌道
4. まくら木の取り換え周期

- ・■■■■ (作成者の氏名)
- ・■■■■大学/■■工業高等専門学校
- 学科
- ・卒業研究の対象はコンクリート

デザイン賞カルタ (その1) : 線路が続いているアングルが特徴的で読み札もユニーク



- ・友愛橋 愛知県長久手市
- ・H.6.3竣工 分岐が特徴

1. 側面からのデザイン性に優れている橋はよくあるが、上下から見て楽しい橋は珍しいと思ったから。
2. 分岐点に一つずつ電灯がある
3. 人があまり多くなくて撮影しやすい、周辺の自然が豊かでちょうど良く調和
4. 二股にすることで、強度の低下には繋がらないのか

- ・■■■■ (作成者の氏名)
- ・■■■■大学/■■工業高等専門学校
- 学科
- ・旅行写真で人物より構造物が多い

デザイン賞受賞カルタ (その2) : 橋梁の曲線美が伝わり、かつ曲線美を逆手にとる読み札がおもしろい。



- ・太田橋 岐阜県美濃加茂市

1. 地元の橋であるのと同時に、平成23年に選奨土木遺産に認定されたから
2. すぐ側の河原も美しく、青い橋と合わさってよい風景であったこと・気がついたこと
3. 大正15年に施行された太田橋は、戦争中破壊されることなく今に至る
4. 特になし

- ・■■■■ (作成者の氏名)
- ・■■■■大学/■■工業高等専門学校
- 学科
- ・研究は排水処理

情熱賞受賞カルタ : 太田橋への愛着が非常によく伝わる読み札が高評価された。